様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年５月２３日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００９　～　２０１２
課題番号：２１５２０２５７
研究課題名（和文）　ウィリアム・フォークナーの技法と人種・階級・ジェンダーの境界消失のテーマ
研究課題名（英文）　William Faulkner’s Technique and Theme of the Disappearance of the Boundaries of Race, Class, and Gender
研究代表者
大地　真介（SHINSUKE OHCHI）
広島大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：５０３３０６５０

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、アメリカを代表する作家の一人であるウィリアム・フォークナーの作品とアメリカ社会との関係についての研究に貢献することである。筆者は、〈ストーリー〉の基盤を解体するフォークナーの技法が、旧南部社会の基盤の解体のテーマと連動し、同テーマを強化していると考えるが、筆者のこの考えを、フォークナーの代表作のテーマと技法を検討することによって論証した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to contribute to the studies on the relationship between American society and the works of William Faulkner, one of the most prominent American writers. I think that Faulkner’s novels use the technique of “disassembling the base” of a story, which reinforces the theme of “the disassembly of the base” of Old South society. I verified this idea by examining the theme and technique of his masterpieces.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	600,000	180,000	780,000
２０１０年度	500,000	150,000	650,000
２０１１年度	700,000	210,000	910,000
２０１２年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総　計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学
キーワード：ウィリアム・フォークナー

１．研究開始当初の背景

筆者の研究の学術的背景を述べると、まず、物語の時間と空間を解体するフォークナーの技法については、これまでの研究では、技法のみを論じていたり、作品の主要なテーマではなくて些細なモチーフと技法の関係を論じていたりするだけである。技法を作品の主要なテーマを結びつけようと試みた研究書もないわけではないが、実質的に失敗に終わっている。このような研究動向の中、フォークナーの技法を作品の主要なテーマと連動するものとしてとらえる筆者の論は特色ある先駆的な研究といえる。

また、フォークナーの作品における人種の問題を考察する研究、同作品における階級を考察する研究、同作品におけるジェンダーを

考察する研究は、それぞれ多々あるが、人種と階級とジェンダーの問題が複雑に絡み合うフォークナーの作品を考察する際には、人種、階級、ジェンダーを、別個に論じるのではなく、統合的に論じる必要があると思われる。筆者は、南北戦争敗北後のアメリカ南部社会を描くフォークナーの作品における人種・階級・ジェンダーについて統合的に論じたが、それが筆者の研究のもう一つの特色である。

これまで、筆者は、フォークナーの作品と当時のアメリカの政治や社会（父権制等）との関係について研究すると同時に、フォークナーの作品の技法と主要なテーマの関係について多くの論文を執筆してきた。それらの研究成果を踏まえたうえで、本研究では、父権制と関わるジェンダーの問題だけではなく、人種や階級の問題も研究対象とし、フォークナーの作品の技法とテーマについての研究を発展させていった次第である。

２．研究の目的

筆者の研究は、アメリカを代表する作家の一人ウィリアム・フォークナーの小説とアメリカの社会・文化との関係についての研究に貢献することが目的である。具体的に言えば、フォークナーの作品の主要なテーマに関しては、従来、〈ストーリー〉の時間と空間を解体するフォークナーの技法とは別個に論じられがちであったが、筆者は、次のような画期的な論を提示した。フォークナーの代表作は皆、南北戦争での敗北によってアメリカ南部で劇的に引き起こされた〈人種・階級・ジェンダーの境界の消失〉、すなわち〈貴族階級や中産階級の白人男性層という旧南部社会の基盤の解体〉が主要なテーマであり、そのテーマと連動する形で、技法において、〈ストーリー〉の基盤、すなわち〈ストーリー〉の時間と空間が劇的に解体されており、旧南部社会の基盤の解体のテーマが、〈ストーリー〉の基盤を解体する技法によって強化されている。筆者のこの説を、具体的に作品を分析して論証するのが、本研究の目的であったし、研究中もこの目的に変更はなかった。

３．研究の方法

筆者は、〈ストーリー〉の基盤を解体するフォークナーの技法が、旧南部社会の基盤の解体のテーマと連動し、同テーマを強化していることを、フォークナーの代表作とされる『響きと怒り』、『八月の光』、『アブサロム、アブサロム！』および『行け、モーゼ』を取り上げ、実証していった。

そのためにまず、毎年次々と出版されているフォークナーの研究書や人種・階級・ジェンダーに関するアメリカの社会・文化についての最新の研究書を科学研究費で購入して読んでいった。

また、2011 年度には、フォークナーの生地ミシシッピで毎年開催される「フォークナーとヨクナパトーファ国際会議」に出席し、世界的に有名なフォークナー研究者たちと交流してフォークナー研究の最新の動向を把握した。

そして、2012 年度には、フォークナーの小説の原稿や書簡等の資料を所蔵するヴァージニア大学、プリンストン大学、イェール大学およびニューヨーク公立図書館に赴き、本研究のための資料収集をした。

本研究の成果は、学会で口頭発表したり、学術雑誌や論集で発表したりしていった次第である。

４．研究成果

(1) 2009 年度

まず筆者は、中・四国アメリカ文学会の大会のシンポジウムで司会兼発表者を務め、フォークナーの代表作の一つ『響きと怒り』を扱い、「『響きと怒り』の技法とテーマ――人種・階級・ジェンダーの境界消失」というタイトルで発表し、好評を得た。その発表論文は、亀井俊介・平石貴樹両東京大学名誉教授が編集した研究書『アメリカ文学研究のニュー・フロンティア――資料・批評・歴史』に掲載された。本論文は、『アメリカ文学研究』や『中・四国アメリカ文学研究』の書評で高く評価された。

また、フォークナーの技法とテーマをアレハンドロ・ゴンサレス・イニャリトゥの作品との関係で論じた拙論を、日本ウィリアム・フォークナー協会の学会誌『フォークナー』に発表し、さらに、同論文を英訳して同協会のホームページに掲載した。この論文は、日本映画学会会長の加藤幹郎京都大学教授に認められ、同学会の全国大会において、同論文に基づいて「アレハンドロ・ゴンサレス・イニャリトゥとウィリアム・フォークナー――ストーリーの時空の解体」というタイトルで講演し、好評を博した。

(2) 2010 年度

まず筆者は、日本英文学会中国四国支部大会のシンポジアムで司会兼発表者を務め、「フォークナーの『八月の光』の技法とテーマ――階級・人種・ジェンダーの境界消失」というタイトルで発表し、高い評価を得た。そしてそれを論文の形に仕上げた。

また、現在ノーベル賞に最も近い作家の一人と言われるコーマック・マッカーシーとの比較を通してフォークナーの上記のテーマについて論文を執筆した次第である。

(3)2011 年度
まず筆者は、フォークナーの生地ミシシッピで毎年開催される「フォークナーとヨクナパトーファ国際会議」に出席し、高名なフォークナーの研究者たちと交流して貴重な研究情報を得た。その情報を活用して、「『アブサロム、アブサロム！』の技法とテーマ――人種・階級・ジェンダーの境界消失」というタイトルで論文を執筆した。さらに、フォークナーの上記の技法やテーマとの比較でコーマック・マッカーシーやフィリップ・K・ディックに関する論文を２本発表した。両論文とも大学のリポジトリで公開しているが、いずれもアクセス数は極めて多い。

(4)2012 年度
まず筆者は、伊藤詔子広島大学名誉教授監修の研究書『カウンターナラティヴから語るアメリカ文学』に、「旧南部の幻影――フォークナーの『八月の光』における人種・階級・ジェンダーの境界消失」という論文を発表した。同研究書は、まだ出版されたばかりだが、『週刊読書人』や日本アメリカ学会の書評で高く評価されている。
また筆者は、フォークナーの小説の原稿や書簡等の資料を所蔵するヴァージニア大学、プリンストン大学、イェール大学およびニューヨーク公立図書館に資料収集に行き、筆者の論文執筆に生かした。まず、「『行け、モーゼ』の技法とテーマ――人種・階級・ジェンダーの境界消失」という論文を執筆しており、それを今年度中に著名な学術雑誌に投稿する予定である。さらに筆者は、フォークナー作品の主要テーマに関して、「Margaret Mitchell の Gone with the Wind と William Faulkner の "A Rose for Emily"――旧南部への執着」という論文を発表した。

以上述べてきたように、筆者は、申請時の研究計画を充分に達成し、実り多い研究成果を得た。今後の展望としては、この４年間の研究成果をまとめて加筆し、『ウィリアム・フォークナーの技法とテーマ――人種・階級・ジェンダーの境界消失』という研究書を数年後に出版する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）
① 大地真介、Margaret Mitchell の Gone with the Wind と William Faulkner の "A Rose for Emily"――旧南部への執着、表現技術研究、査読無、8 巻、2013、19-30
② 大地真介、Cormac McCarthy の No Country for Old Men と William Faulkner の Sanctuary――アメリカ南部における〈国境〉の有無、表現技術研究、査読無、7 号、2012、1-10
http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AA12016400/BRCTR_7_h1.pdf
③ 大地真介、Do Androids Dream of Electric Sheep?と Blade Runner―黒人の表象としてのアンドロイド―、広島大学大学院文学研究科論集、査読無、71 巻、2011、73-85
http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AA11643449/HiroshimaUniv-StudGradSchLett_71_73.pdf
④ 大地真介、フォークナーとアレハンドロ・ゴンサレス・イニャリトゥ、フォークナー、査読有、11 号、2009、68-79、英語版 William Faulkner and Alejandro González Iñárritu: The Fragmentation of the Time and Space in a Story、http://www.faulknerjapan.com/journal/no11/pdf/EJNo11-ohchi.pdf

〔学会発表〕（計４件）
① 大地真介、シンポジウム、フォークナーとクエンティン・タランティーノ、日本アメリカ文学会全国大会、2014 年 10 月 12 日（発表決定）、北海道
② 大地真介、シンポジウム、フォークナーの Light in August の技法とテーマ――階級・人種・ジェンダーの境界消失、日本英文学会中国四国支部大会、2010 年 10 月 31 日、四国大学
③ 大地真介、講演、アレハンドロ・ゴンサレス・イニャリトゥとウィリアム・フォークナー――ストーリーの時空の解体、日本映画学会全国大会、2009 年 12 月 5 日、京都大学
④ 大地真介、シンポジウム、『響きと怒り』の技法とテーマ――人種・階級・ジェンダーの境界消失、中・四国アメリカ文学会大会、2009 年 6 月 14 日、島根大学

〔図書〕（計５件）
① 大地真介, 他、三修社、諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』、2013（出版決定）、200-220
② 大地真介, 他、松柏社、斎藤兆史編『My Home, My English Roots』、2013、49-54
③ 大地真介, 他、音羽書房鶴見書店、伊藤詔子監修『カウンターナラティヴから語るアメリカ文学』、2012、164-180
④ 大地真介, 他、南雲堂、亀井俊介・平石貴樹編『アメリカ文学研究のニュー・フロンティア――資料・批評・歴史』、2009、248-263
⑤ 大地真介, 他、英宝社、田中久男監修『ア

メリカ文学と階級――格差社会の本質を問う』、2009、67-81

〔その他〕
ホームページ等
http://www.hiroshima-u.ac.jp/bungaku/staff/p_185d7e.html

６．研究組織
(1)研究代表者
大地　真介（SHINSUKE OHCHI）
広島大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：５０３３０６５０

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：